

中田かわら版 5 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■郷土歴史家・小島貞雄氏の功績 <2>

詩『中田史蹟めぐり』

宮田貞夫

小島さんは本や文集などに文章も書いているが俳句や詩、絵図など多才な趣味を持っている。横浜俳話会員であり俳誌「冬草」同人、著書に句集「愉しき農夫」がある。

今回紹介する「中田史蹟めぐり」は中田地方に残る地名・伝説・史跡・伝統行事など六番まで入れると 80 余が収められている。下記三番まででも 30 余か所が出てくる。このなかで 2 か所を解説しておく。



村岡川（宇田川）12 橋の 7 番目「かばた橋」

中田の村岡川（宇田川）に架かる 12 橋のうち唯一、ひらがなで書かれた「かばた橋」。なぜ漢字ではないのか、泉土木部に問い合わせも分からないという回答。（「かわら版」No.184、令和 4 年）。そこで文献を調べてみると『歴史のかおり』（小山家 歴史の再発見）の中に明治 12 年 2 月 1 日付で「皇国地誌」への報告書の中で「河端」の地名ででていいる。多分「河端」（かわばた）が訛って「かばた」になったと思われる。小島さんの詩（二番）の中に「河端」の地名がのっているが、古い中田の地名として認識していたのだろう。

もう 1 か所は二番 6 行目の「鷹匠塚」は、小島家は昔鷹匠の宿泊した家だった。当時泉区には岡津と境川と 3 か所あったという。

<参考資料>

『歴史のかおり』（小山家 歴史の再発見）小山俊一、平成 5 年 10 月発行

『郷土いずみ』（泉区の地名と伝説）生涯学級（いずみ郷土を知る会）<運営委員>翠川宣子、安西イツ、猪股恒三、石川テイ、大湖光雄、小川徳治、前田重一、山田定男、宮田貞夫 平成 6 年 2 月発行

詩・『中田史蹟めぐり』

小島貞雄 作

- 一、戸塚の宿は水本屋の
猫らのおどった踊場よ
東原から鯉ヶ久保
玄蕃荒句は城の跡
柏尾道辺の庚申塚や
相模の海は今見えず
白百合香る東谷に
続く長久保堂狩り
- 二、桜堂すぎ葛野原
双体道祖神・山神祠
河端は狩・漁民遺蹟
若草もゆる夏刈場
家畜墓地行き朝日子浴びて
鷹匠塚に小手かざしや
池谷、根下は丸の内
代官屋敷杉聳ゆ
- 三、御蔵屋敷にお伊勢様
殿の眠る稲葉堂
一社・一寺に根檀方
宮根講中任重し
馬の背にゆれ郷境行けば
三十六杯蒔又五杯蒔
村を救いし喬翁の
遺徳崇めよ学舎跡

青空の下、第20回「さくらまつり」開催 <中田小学校>

晴天に恵まれた3月31日(日)、5年ぶりに「さくらまつり」が開かれた。中田小学校同窓会主催・中田連合自治会、地元小・中学校 PTA などの後援で、大勢の来場者でにぎわった。南門脇の河津桜が鮮やかに咲く中、染井吉野は遠慮がちにちらほら。校庭では隼人高校生による「和太鼓」の演技。力強さが足元から伝わり、感動。そして中田小と東中田小の児童が地域化により、新たに結成された「横浜中田ジュニアマーチングバンド」として演奏、曲は「オペラ座の怪人」。初めてのズボンスタイルできびきびと動き回る姿に観客からの盛大な拍手が贈られた。続いて、年齢を重ねても元気いっばいの「かっぽれ」の9人の演技は珍しさもあり会場を沸かせていた。売店前ではいつもの様に長蛇の列。順番を待つ親子づれで賑わう様子は、久々に心が和んだ爽やかな時間だった。そして毎年行われている桜の記念植樹も今年の卒業生の手によって卒業式の日には20本目が植えられたとのこと。

(松本純子)



右利き、左利き用のグローブ



新しいグローブでキャッチボール

大谷グローブが届いた！

「やったー！これが大谷グローブだ！」
「すげー！」。葛野小学校（阿山美香校長）に待望の大谷グローブが届き2月6日、朝会で全校生徒に告げられた。その時の子どもらの喜びの声だ。6年生の教室から順番にお披露目が始まった。昼休みには校庭で男の子も女の子もグローブを手にキャッチボールを楽しんでいる。阿山校長先生も「素晴らしい贈り物に子どもたちの明るい笑顔や声が、当分続くでしょうね」と。グローブを使った後は

段ボールの箱にしまっておいて次のグループに渡している。

<大谷翔平選手のグローブ>

寄贈グローブには細やかな配慮が込められている。3個のグローブは右利き用で高学年用、低学年用、左利き用の3種があり、大谷選手のブロマイドと「野球しようぜ！」のメッセージとサインが添えられている。メーカーはニューバランス。革も柔らかく捕球しやすい感じだ。(宮田貞夫)

編集後記

年明けから能登地震や台湾地震などの災害が続いている。テレビをつければウクライナやガザの戦争映像。今日は小、中学校の入学式だ。正装の父兄に手を引かれた新1年生が大きなランドセルを背負って学校の正門前で記念写真を撮られていた。この子達の安全な将来の為に防災体制の構築と決して戦争への道を選ばない国家になる様願うばかりだ。

T. 松本

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之